

<研究報告>

英語の不定冠詞 a/an と数詞 one の比較^{*} —one day が「ある日」になるのはなぜか—

石島 恵太郎 信州大学大学院教育学研究科英語教育専修

キーワード：不定冠詞, 数詞 one, 照応, 定冠詞

1. はじめに

日本語と比較した際の英語の大きな特徴として、冠詞の存在があげられる¹。冠詞の1つである不定冠詞 a/an は可算名詞とともに用いられ、数が「1」であることを表す。この点において、不定冠詞 a/an は「1」を意味する数詞 one と同じであるといえる²。しかし、両者には違いもある。例えば、in a day が「1日で」という意味をもつのにに対し、one day は「ある日」という意味をもち、「1」の意味が薄れてしまっている。不定冠詞 a/an と数詞 one はともに「1」という意味をもつにもかかわらず、どうしてこのような違いが生まれるのだろうか。

本稿では、不定冠詞 a/an と数詞 one の違いについての先行研究を概観し、その問題点を指摘する。そして、不定冠詞 a/an と数詞 one の機能の違いを定冠詞 the との対比も踏まえて比較することで、先行研究で検討されていない数詞 one 独自の機能を明らかにする。

2. 不定冠詞 a/an と数詞 one の先行研究とその問題点

Whitman (1974) によると、冠詞には Quantity と Determiner の2つの役割がある。Quantity は数を表す役割を表し、Determiner は特定の対象を指し示す役割を表すとされている。前者には不定冠詞 a/an や数量詞が含まれ、後者には the, this, NP's などが含まれる。これらを図示すると、次のようになる (Whitman, 1974, p. 254)。

“ARTICLE →(QUANTITY)+(DETERMINER)
QUANTITY → {a/an, one; two, three, some, many,...}
DETERMINER → {NP+'s, the, this, ...}”

つまり、Whitman の分析では、不定冠詞 a/an と数詞 one を数の「1」という観点から、共通のものと

* 本稿の執筆にあたって、信州大学教育学部英語教育コースの田中江扶准教授から貴重なご意見を頂いたことに感謝申し上げます。また、信州大学外国人講師である Colleen Dalton 氏には英語の例文の判断をして頂いたのに記して感謝の意を表したい。最後に、本稿を完成させるまでに議論を重ねてくれた英語教育専修の大学院生の伊東薫、遠山昂希、細川信太郎、森田遼介、柳沢明文、吉岡伸の各氏にも心からの感謝を捧げたい。

¹ 冠詞の特殊性。冠詞はどの言語にも存在するものではない。例えば、日本語や中国語のようなアジアの言語の他に、スラブ語派のロシア語などにも、冠詞は存在しない。さらに、冠詞の使い方も言語間で異なる。例えば、英語の冠詞は格変化を起こさないが、ドイツ語の冠詞は格変化を起こす。また、フランス語には若干量を表す部分冠詞が存在する。このように、冠詞は普遍性を欠いた、特殊な文法項目であるといえる(石田 (2002)参照)。

² a と one の関係。歴史的には不定冠詞 a は数詞 one が音声的に弱体化し、one → an → a という過程を経てきたものである。数詞 one と語源が同じであり、不定冠詞 a は歴史的には「1」という意味を表していたことになる(佐久間 (2001)参照)。

して捉えている³。

また、横井(2001)では、中学校検定教科書や英米児童書における不定冠詞 *a/an* と数詞 *one* が生起する文脈状況が検討されているが、ここでも、数の「1」が伝達内容として重要であるか否かが不定冠詞 *a/an* と数詞 *one* を選択する基準であるとされている。以下は、横井(2001: 87-8)からの引用である。

“数詞 *one* + 単数名詞という表現をする場合、前提として文脈状況内に *the* — *s* 又は *they* と表現できそうな、特定化される可能性のある複数個の存在があるか、あるいは対になったもの（つまり、すでに数的に限定されているもの）の一方について述べている、ということのみをみた。また、不定冠詞ではなく、数詞 *one* を用いるのは、数「1」が伝達内容として重要性をもち、数が「1つ」であることを強調している文脈状況で生起している。”

上の引用にあるように、横井(2001)は数詞 *one* の生起する文脈の前提は不定冠詞 *a/an* とは異なると指摘しているものの、最終的に不定冠詞 *a/an* と数詞 *one* の選択基準は数の「1」の伝達内容の重要性であると結論づけている。

しかし、数の「1」という観点からのみでは、不定冠詞 *a/an* と数詞 *one* の違いを適切に捉えることができない。例えば、*in a day* に対し *in one day* では「1日」という数の「1」が強調されているといえるが、数詞 *one* を含む副詞句である *one day* は「ある日」という意味を表すため、数の「1」を強調しているとは言いがたくなる。つまり、数詞 *one* には数の「1」を表す以外に、独自の機能があると考えられる。ここで、もう一度、Whitman(1974)の分析を見てみよう。Whitmanの冠詞の役割の分類に従うと、不定冠詞 *a/an* は *Quantity* の役割をもつが、*Determiner* の役割はもたない。すなわち、不定冠詞 *a/an* は数を表すことはできるが、特定の対象を指し示すことはできないことになる。これは、不定冠詞 *a/an* を定冠詞 *the* と比較した場合に明らかになる。Quirk, Greenbaum, Leech & Svartvik(1985: 272) が指摘しているように、不定冠詞 *a/an* は、前出の情報を示さないときに使用される(例: *An intruder has stolen a vase. The intruder stole the vase from a locked case...*)。つまり、定冠詞 *the* には前出の情報を指し示す機能がある一方、不定冠詞 *a/an* にはそのような機能はない。この前出の情報を指し示し、文章に結束性をもたらす機能を照応機能と呼ぶ。先行研究は、不定冠詞 *a/an* の性質のうち、数の「1」の点でのみ議論されており、この照応機能の有無の点で不定冠詞 *a/an* と数詞 *one* との比較検討を行った研究は筆者の知る限りない。そこで、次節では、不定冠詞 *a/an* と数詞 *one*、さらに数詞 *one* と定冠詞 *the* とを照応機能の観点から検討していく。

3. 照応機能の観点からの比較

Thomson & Martinet(1986) は、時間、距離、重さなどを数えたり測ったりするときには不定冠詞 *a/an*

³ 強調表現としての *one* 不定冠詞 *a/an* と数詞 *one* を数の「1」という観点から捉える分析は多い。例えば、Quirk et al.(1985)では、数詞 *one* は不定冠詞 *a/an* の強調表現として使用されることが指摘されている。

(i) a. I would like **one** photocopy of this article. (**a** photocopy of this article の強調) (ibid.: 261)

b. **one** or two miles (**a** mile or two の強調) (ibid.: 274)

(ia, b)にあるように、数の「1」を強調したい場合には *a* の代わりに *one* が使われる。ただし、一般的事実が述べられている文においては、不定冠詞 *a/an* の代わりに数詞 *one* を使うことはできない(例: **A** tiger can be dangerous. (ibid: 274))。

と数詞 one の両者が使用できるものの、不定冠詞 a/an と数詞 one は置き換えできず、解釈に差が生じる場合があることを指摘している。次の例を見てみよう。

(1) A shotgun is no good. (=It is the wrong sort of things.)

(2) One shotgun is no good. (=I need two or three.) (ibid.: 17)

(1)は、「ショットガンというものは良くない」ということを意味しているが、(2)は、「ショットガンが1つでは不十分」という意味になる。つまり、(2)では数に焦点が当たっている。ところが、(2)にはもう1つの意味がある。

(3) One shotgun is no good. (= There are many shotguns and one of them is something wrong or broken.)

(3)にあるように、「(複数あるうちの)ショットガンの1つが壊れている。」という意味で数詞oneが使われている。この場合、前提として多くのshotgunがあり、その中から1つを示している。この違いは、文脈を指定するとより明らかになる。

(4) We have some weapons. But one shotgun is no good.

(4)では、one shotgunが前出の some weaponsのうちの1つのshotgunを示す、(3)で表した意味のみをもつ。つまり、数詞oneは数の「1」を表すと同時に、前出の情報のうちの1つを示すことが可能である。この照応機能を備えているか否かという点で、数詞oneは不定冠詞a/anとは異なるといえる。

また、2節で述べたように、定冠詞 the にも照応機能があり、前出の情報を示すことができるため、(5)のように、数詞 one に定冠詞 the をつけることによって文章に結束性をもたせることもできる。

(5) We have some weapons. But the one shotgun is no good.

しかし、この場合、some weapons のうちの1つのshotgunを示すのではなく、some weapons のうちにshotgunが1つしか存在しておらず、その1つを示すことになる。

これは、石田 (2002)が主張するように、定冠詞 the は聞き手もしくは読み手に対し何を示しているかが、唯一的に明らかなきに用いられる形式だからである。そのため the one shotgun と言うことができるのは、1つしかショットガンが存在しない場面で唯一的にその存在を示す場合となる。一方、数詞 one は照応することができるものの、唯一的に示すことはしない。複数の中の1つを示すのみで、常にそれだけでは聞き手(もしくは読み手)に指し示す対象が不明なままであるという点で照応機能において定冠詞 the とは異なる⁴。

さらに、この数詞 one の照応機能は、副詞句においても同様に使用されていると考えられる。

(6) I did all in a day.

(7) I did all in one day.

(6)と(7)は、数の「1」が強調されているかどうかの違いであり、ともに「一日で」という意味を表す。つまり、(7)の数詞 one は、前出の情報を照応する働きはもたずに、「1」という意味を表している。一方、次の(8)においては、数詞 one は、数の「1」に加えて、前出の情報に対する照応機能ももって

⁴ 定冠詞 the と間接的照応 定冠詞 the は、前出のものを直接もしくは間接的に指し示すことができる。

(i) a. Hanako bought a book yesterday. But she lost the book the next day.

b. Hanako bought a book yesterday. She came across the author the next day.

(ia)の the book は前出の a book そのものを示しているが、(ib)の the author は前出の a book の情報の一部(=本の著者)を示している。この(ib)の間接的な照応は、全体の一部を指し示すという点で数詞 one がもつ照応機能に近いといえる。

いると考えられる。

(8) I worked for a company for a long time. **One day** I became in charge of a big project.

この **one day** は「私が働いていた時間」のうちの一日を示す役割をもっている。すなわち、前出の時間を照応している。ところが、数詞 **one** は複数のうちの1つを示すものの、唯一的に示すことはできないため、その時間がいつであるかは聞き手(もしくは読み手)には不明である。そのため、(8)の **one day** は「ある日」という意味になる。

時を表す名詞句が形容詞や限定詞によって特定された場合、前置詞を伴わずに使用することができる(田中・本田, 2011, p. 41)。

(9) a. I got up early *this morning*. (cf. I got up early **in the morning**.)

b. We arrived at the town *the following day*. (cf. We arrived there **on the day**.)

(9a)では、時を表す名詞の **morning** が限定詞の **this** により特定されているため、前置詞なしで副詞的に使われている。同様に、(9b)では、時を表す名詞の **day** が形容詞の **following** により特定されているため、前置詞なしで副詞的に使われている⁵。(9)の場合と同じく、(8)の **one day** においても、数詞 **one** が数の「1」に加えて、照応機能を持ち、時を表す **day** を特定するために前置詞を伴わないと考える事ができる。同様に、**one morning**(「ある朝」)や**one fine Sunday**(「ある晴れた日曜日」)等においても、数詞 **one** が前出の時間のうちの1つを照応し、特定しているために、前置詞なしで副詞的に使われていると考えられる。

4. まとめ

本稿では、不定冠詞 **a/an** と数詞 **one** の機能の違いは、照応機能の有無であることを定冠詞 **the** との対比も踏まえて明らかにした。その上で、数詞 **one** 独自の照応機能は、名詞句においてのみではなく副詞句においても使用されていることを示した。以上を踏まえると、不定冠詞 **a/an** と数詞 **one** との関係は、図1のようにまとめることができる。

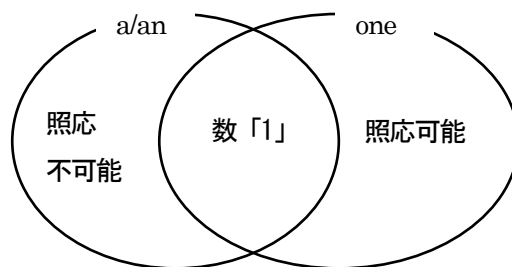


図1 不定冠詞 **a/an** と数詞 **one** の関係

⁵ 日英語の時を表す名詞句 時を表す名詞句が副詞的に使われる場合、通常、英語では前置詞が、日本語では後置詞(もしくは、格助詞)が使われる。

(i) a. I will come **on** Wednesday. (水曜日に来ます。)

b. I will return **in** August. (8月に帰ります。)

興味深いことに、日英語において、前置詞と後置詞が不要な場合に対応関係が見られる(南, 2009, p. 65)。

(ii) a. I'm starting **tomorrow**. (明日、出発の予定です。)

b. I listen to music **every morning**. (毎朝、音楽を聴きます。)

このように、日英語において、時を表す名詞が特定されると、前置詞なしで副詞的に使うことが可能になるといえる。

図1にあるように、不定冠詞 a/an と数詞 one はともに数の「1」を表す。しかし、不定冠詞 a/an は前出の情報を照応する働きはないが、数詞 one は前出の複数の情報のうちの1つを照応する場面での使用が可能である。つまり、不定冠詞 a/an と数詞 one の機能の違いは照応機能の有無にある。ただし、数詞 one の指し示す対象は聞き手(もしくは読み手)には不明であるため、定冠詞 the のように唯一的に限定する機能はない。

以上のことから、数詞 one は数の「1」を表す不定冠詞 a/an と照応可能な定冠詞 the の性質を同時にもつ存在だといえる。今後は、数詞 one の照応機能を定冠詞 the と比較し、類似点や相違点を詳細に検討していく必要がある。

引用文献

- 石田秀雄 (2002). わかりやすい英語冠詞講義 大修館書店.
- 田中江扶・本田謙介 (2011). 名詞 畠山雄二 (編) 大学で教える英文法 くろしお出版 pp.25-48.
- 南雅彦 (2009). 言語と文化 -言語学から読み解く ことばのバリエーション- くろしお出版.
- Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G., & Svartvik, J. (1985) *A comprehensive grammar of the English language*. New York: Longman.
- 佐久間治 (2001). 英語の語源のはなし 研究社.
- Thomson, A. J., & Martinet, A. V. (1986). *A Practical English Grammar*. Oxford: Oxford University Press
- Whitman, R. L. (1974). Teaching the Article in English. *TESOL Quarterly*, 8(3), 253-262.
- 横井希 (2001). 英語の不定冠詞と数詞 one 千里山文學論集, 65, 71-91.

(平成27年 1月22日 受付)
(平成27年 3月 5日 受理)